

南 の 風 5 5 2

南部地区ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

トランジションオフェンスの続きです。

センターの個人資質にかかわらず（センターが強かろうが弱かろうが）、**センターは常にリムランを狙い、レイアップシュートの脅威を相手に与えることが重要**です。そして、サイドレーンとミドルレーンの間を使って、1 人のドリブルプッシュ、もう 1 人がトレーラー（あとから追いかけるプレーヤー）となります。速さを確保する意味では、リバウンダーがドリブルプッシュするようにします。

2 番あるいは 3 番ポジションの選手がリバウンドを取ってガードがアウトレットパスを受けたときにはセンター 2 人（あるいはパワーフォワード）が先に走っていることもあります。その場合は、先頭を走っているセンターがリムランをして、もう 1 人のセンターがサイドレーンに開いていきます。他方のサイドを、リバウンドを取っていないウイングが走ります。

原則③安全第一にボールを運ぶ

▶ボールを失うことなく、すばやく攻撃の態勢を整える

この局面では、安全第一で攻めることも大事になってきます。ボールを保持するチームが変わった瞬間は、攻守それぞれのインテンシティ（プレーの強度）が上がっていてカオスな状況になりやすく、ミスも多く起こりやすくなります。オフェンス（ボールを奪った側）はボールを獲得するまでの努力や、すばやく攻めたいという焦りがミスの原因になりやすくなります。ディフェンス（ボールを奪われた側）も即座にボールを奪い返そうとするので、さらにプレーのインテンシティが高まり、オフェンスのミスを誘いやすくなります。それらを両面から知ったうえで、安全第一で攻撃の局面につなげるようにします。だからこそ注意するという感覚が必要です。

安全第一でボールをフロントコートに運ぶためには、ボールコントロールに長けたポイントガードが安全にボールをつなぐ意識が重要です。ボールコントロールが不安定なプレーヤーがポイントガードを探すのではなく、**ポイントガードが動いてパスを出しやすくする工夫が必要**です。リバウンダーがボールを取ることが明らかになるときに、ポイントガードがリバウンダーの近くに行きボールを受け、素早く安全に、確実に、ボールをつなぐようにします。

特に身長の小さいチームはより多くの速攻を出したいわけですから、守備から攻撃の局面において、それぞれのポジションの選手がいかに効率的な動きをするかが大切になってきます。

ただ私は、U12 カテゴリーでは、味方がリバウンドを取ることが明らかになったとき、この南の風で何回も取り上げた、フィギアエイトの形でボールを運ぶ（素早く前に進める）ことを奨めます。なぜなら**ミニバス世代は、多くの選手にトランジション時のキャスティングを判断し経験してほしいから**です。フィギアエイトの詳しい説明はここでは割愛します。

▶オフボールのプレーヤーがサポートにまわる

守備から攻撃の局面での「不利」とは、「ボールマンが自由にボールをコントロールできていない状況」のことです。**ここではさらに安全第一の視点を持つ**ようにします。 次号にします